

令和7年度 総合的な学習の時間全体計画 江戸川区立平井西小学校

校長名 藤澤 優子

名称: 西小タイム

学校の教育目標	人権尊重の精神に基づき、本校の児童の実態をふまえ、次のように目標を設定する。 ○やさしい心 ○じょうぶな体 ○かんがえる力 ・三つの目標は不可分のものととらえ、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指す
---------	---

国が示す総合的な学習の時間の目標
探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。 (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の総合的な学習の時間の目標
1 自分の生活と地域の事象とのかかわりについて探究することを通して、横断的・総合的な学習を行う。 2 児童一人一人が課題をもち、自ら考え、自ら学ぶ資質や態度、能力を育成する。 3 事象を多面的に追究する方法を身に付ける。問題を主体的に発見し、仲間と協力して問題を解決する。

育てようとする資質や能力及び態度	
知識及び技能	
第3・4学年	第5・6学年
・互いに関わりながら、友達の良さを生かそうとしている。 ・他教科で学んだことを生かしている。	・それぞれ特徴があり、多種多様に存在することに気付く。 ・他教科で学んだことを生かし、新しい学びにつなげている。
思考力、判断力、表現力等	
第3・4学年	第5・6学年
・問題状況の中から課題を発見し、設定する。 ・手段を選択し、情報を収集する。	・問題状況における事実や関係を把握し理解する。 ・必要な情報を収集し分析する。
学びに向かう力、人間性等	
第3・4学年	第5・6学年
・目標を設定し、課題の解決に向けて行動する。 ・自らの生活の在り方を見直し、実践する。	・自らの行為について意思決定する。 ・自己の将来を考え、夢や希望をもつ。

内 容	学習対象	学習事項
第3学年	地域の伝統や文化・そこで活躍する人々 生命現象の神秘、不思議、すばらしさ 江戸川区の名産とそれらを作る人々の思い 身近な自然環境とそこに起きている環境問題 科学技術の進歩と自分たちのくらしの変化	「わたしたちの町、再発見」町探検からの発展、地域学習。 「生きものはかせになろう」カイコの学習等。 「西っ子小松菜研究隊」地域から江戸川区の学習。 「もったいない大作戦」環境問題。 「昔のくらしを知ろう」社会の昔のくらしからの発展。
第4学年	身近な高齢者、障害のある人々とその暮らしを支 援する仕組みや人々 私たちの安心・安全な暮らしをささえる人々や工夫 自己の成長と、それを支えてくれた人々	「みんなで考えよう、ユニバーサルデザインのまち」 地域に住む人々の暮らし。ユニバーサルデザイン等の学習。 「くらしの安全守り隊」防災教育。安全教育。 「プロに学ぼう、職業研究」職業研究から、自己の将来を考える流
第5学年	地域ごとの産業とくらしの工夫 地域に根付いたものづくりに携わる人々の工夫 地域ごとの生活や文化とそこに暮らす人々	「平井西米づくり」米づくりについての取組。 「西っ子ECO作戦」様々なエコについての取組。 「ウインターへGO！」ウインタースクールに向けての取組。
第6学年	地域活性化のために取り組んでいる人々 日本の各地域の伝統や文化・自然等と、それを支える人々 自己の成長と未来への展望	「1年生とともに」最上級生としての取組。 「日光深堀り大作戦」日光移動教室に向けての取組。 「もうすぐ、卒業」卒業に向けた取組。

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
・各学年の実態に応じて、地域、情報、環境、健康・福祉、国際理解や自分自身にかかわるテーマについて探究する。 ・単元は学年で開発し、年間3～4単元程度とする。 ・地域の人、もの、ことを生かした学習活動を行う。 ・学習成果を発表する場を設ける。 ・学習発表会、保護者も参加する授業などを採り入れる。	・児童の課題意識を追究・発展させる支援 ・個に応じた指導の工夫 ・相互交流による学習活動の充実 ・教科との関連的な指導の重視 ・言語活動による体験活動の価値付けとその意味の自覚化	・「総合」主任を中心とした校内の連絡調整と支援体制確立 ・ゲストティーチャーによる授業、チーム・ティーチングの日常化 ・保護者・地域の教育力の効果的運用を目指し、人材バンクを整備し、関わりをもつ。 ・ワークショップ研修の重視 ・メディアセンターとしての学校図書館の整備・充実。	・制作物、ポートフォリオを活用した評価の充実 ・自己評価の重視 ・活動の区切りごとの形成評価 ・指導と評価の一体化 ・学校運営協議会による外部評価の実施と活用